

<自己評価の基準> 【A】十分に達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

I 学習指導

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
<p>① 基礎基本の定着を図るとともに、学習内容に応じて10の学習者像を指導計画に位置付け、探究型、双方向型、課題解決型の教育手法を取り入れた授業を実践する。</p> <p>② 「わかる授業」を合言葉に、毎時間の授業では授業の始めに「本時のねらい」を明示し、授業の終わりに「本時の振り返り」を行う。ICT等の視聴覚教材を積極的に活用する。</p> <p>③ 校内研修や教科会においてオンライン学習の併用を含めた指導方法や評価についての研究・研修を行い、組織的・計画的に学習指導力を向上させる。</p> <p>③ 年間授業計画に学習到達目標を明記するとともに評価計画を提示し、指導成果の検証を踏まえ、指導内容を改善する。</p> <p>④ 国際理解科目の必修修選択化に伴う成果と課題を整理し、到達目標に即した指導と評価の改善・充実を図る。</p> <p>⑤ 課題研究において、図書館や高大連携による教育資源を活用するなどして、ねらいに即した指導内容・指導方法の改善を図る。</p>	<p><関連する数値目標></p> <p>○生徒による授業評価で「内容を理解している」80%以上、「授業内容に満足している」90%以上</p> <p>○1、2年生の家庭学習時間平均平日2時間以上</p> <p><自己評価>【B】（）内は前年度比</p> <p>●「内容を理解している」83% (-5%) 「授業内容に満足している」82% (-4%)</p> <p>●家庭学習時間(1～3年)平日2時間以上66%(昨年度比+5%)、休日79%(±0%)。</p> <p>●TOEIC IP L&R 平均618点 (-6点)</p> <p>●校内研修(観点別評価、人権教育、IB教育)計3回実施</p> <p>●オンラインやオンデマンドによるハイブリッド型学習指導の実施・普及</p> <p>●「本時のねらい」40% 「本時の振り返り」15% 「ICT活用」53%</p> <p><課題と対応策></p> <p>◎各教科におけるルーブリックの策定<新規></p> <p>◎本時のねらいと振り返りの実施80%</p> <p>◎ICT等の視聴覚教材の効果的な利活用80%</p> <p>◎一人1台端末導入に伴う指導方法や教材等の研究開発</p> <p>◎相互授業参観や校内研修を通しての授業改善</p> <p>◎観点別評価に基づく単元指導計画・評価計画の作成と全ての教科・科目での指導と評価の一体化</p>

II 進路指導

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
<p>① 生徒のニーズや大学入試、高大接続教育等に合わせたキャリアガイダンスを実施するとともに、進路説明会等の内容の充実を図る。</p> <p>② 進学実績データの整理・分析や、1、2学年の模試分析会の実施を通して、進路指導部・学年・教科が連携し、組織的な進学指導を強化する。</p> <p>③ ポートフォリオや模試分析システムを活用し、生徒及び保護者のニーズに応じた面接指導を実施する。</p> <p>④ 進路指導部・学年・教科が連携し、総合型・学校推薦型選抜、一般選抜に対応する講習等の進学指導を組織的・計画的に実施する。</p> <p>⑤ IBコースの進路活動と連携し、組織的な海外大学進学指導体制を強化する。</p>	<p><関連する数値目標></p> <p>○難関国立大学現役合格、国公立及び早慶上理 ICU 現役合格100名以上</p> <p><自己評価>【B】</p> <p>●東北大学2、東京外国語大学9他、国公立大学24名合格、早慶上智理ICU116名合格 (-59名)</p> <p>●海外大学55名合格</p> <p>●模試分析会5回、国内外進学者対象説明会・ガイダンス13回、</p> <p>●長期休業中の講習73 (+6)</p> <p>●大学入学共通テスト実受験者152名</p> <p>●進路通信10回発行</p> <p><課題と対応策></p> <p>◎進路指導部と学年・教科の協働作業と3年間を見通した組織的・計画的な進路指導の推進</p> <p>◎進路指導部と学年・教科の連携による多様な背景を有する生徒の進路選択に係る個別指導、学習支援、面談の強化</p> <p>◎5教科による模試分析の実施と生徒の進路指導へ反映</p>

Ⅲ 生活指導

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
<p>① 挨拶や身だしなみ、マナー、授業規律等について、ホームルームや集会等の機会に触れることにより、生徒の自律的な行動を促す指導を行う。</p> <p>② 登下校のルールや時間厳守を徹底させるため、生徒指導部と学年が連携し、登校指導・遅刻指導を計画的に行う。</p> <p>③ いじめや生命に関わる事故を未然に防ぐため、SNS ルールの周知徹底や生命に係る講話の実施、スクールカウンセラー・専門医派遣事業の活用を図るとともに、人権尊重教育推進校としての取組を推進する。</p> <p>④ 盗難防止月間の取組や長期休業前の生活指導を確実にを行い、事件・事故の防止に努める。</p> <p>⑤ 教科学習や特別活動を通して環境問題への意識を向上させるとともに、感染症対策の徹底と校内美化清掃を強化する。</p>	<p><関連する数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめ件数ゼロ ○盗難防止月間設定2回 ○1日当たり平均遅刻人数減 ○学校評価アンケート「校内の清掃美化活動をきちんと行っていると思う」75%以上 <p><自己評価>【C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●いじめ件数ゼロ ●盗難発生(11月) ●1日当たり平均遅刻人数1.2人(-0.7人) ●「校内の清掃美化活動をきちんと行っていると思う」68%(-5%) <p><課題と対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎生徒指導部内及び学年との協働力の強化 ◎制服着用やTPOに応じた身だしなみ等規範意識の向上と生徒の自律的な行動を促す指導の継続 ◎生徒指導部と学年の連携による登下校マナーや時間厳守等の生活指導の徹底 ◎特別支援教育コーディネーターとスクールカウンセラーの連携強化、いじめや生命に関わる事故の未然防止及び特別な支援を必要とする生徒の指導の充実 ◎貴重品管理指導を始めとする盗難防止策の徹底強化 ◎校内の美化清掃の徹底と新たな日常における感染予防の組織的・計画的な対応継続

Ⅳ 特別活動・部活動・健康づくり

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
<p>① 感染症対策を徹底した上で、学校行事や部活動等を安全に実施できるよう、各教育活動のねらいに即して創意工夫を行う。</p> <p>② コロナ禍における学校行事や部活動等の特別活動の充実と継続性を踏まえ、生徒の実態に即した主体的な活動を促す指導を行う。</p> <p>③ 部活動中の事故を防止するため、「部活動に関する活動指針」に基づく指導を強化するとともに、各部活動において事故防止対策を徹底する。</p> <p>④ 部活動指導者や部員同士の協働・協力を重視し、競技成績や発表会等の成果、参加者の満足度を向上させる。</p> <p>⑤ 保健体育科の授業や体育的行事、部活動等において、指導目標に即した教育活動を行うことにより、体力向上及び心身の健康維持・増進を図る。</p>	<p><関連する数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○都大会入賞レベル以上の成績2部活動以上 ○体力テストの全項目で東京都の平均以上 <p><自己評価>【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学年単位・非公開等による体育祭と桜陽祭の実施 ●行事に対する満足度：生徒76%(+9%)、保護者89%(+14%) ●体力テスト：各学年男女ともほとんどの種目で東京都平均以上 <p>全体的に、室内測定種目(立ち幅跳び・反復横跳び・状態起こし等)で好成績、屋外測定種目(ハンドボール投げ・50m走・持久走等)で都平均程度の記録</p> <p><課題と対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎アフターコロナでの学校行事の企画・運営と、ねらいに応じた教育活動の充実 ◎アフターコロナでの部活動の充実と活動成果の向上 ◎体育授業及び部活動における事故の未然防止策の強化 ◎校内での感染防止のため、健康観察を始めとする基本的な感染対策と特別活動の充実

V 教育課題

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
<p>① 社会状況に応じて新たな交流形態を模索しながら、姉妹校等の学校交流・生徒交流を組織的に継続し、その成果を検証する。</p> <p>② 英語コミュニケーション能力を向上させるため、オンライン英会話や TEEP (学習コンテンツ) を活用し、成果検証・分析を踏まえた改善を行う。</p> <p>③ 広域避難場所としての役割を果たせるよう、地域や外部機関と連携した実践的な防災訓練及び避難訓練を実施する。</p> <p>④ ICT (SNS) を活用し、災害時等の情報発信を迅速かつ確実にを行う。</p> <p>⑤ 在京外国人生徒に係る課題を整理し、関係部署・担当者が連携して、必要に応じた学習支援 (日本語指導) 及び進路指導を行う。</p> <p>⑥ 3つの公開講座 (こどもチアリーディング・体操教室、初めてのカリグラフィー、やさしい英語で学ぶ「西洋の美術史」の実施、及びグラウンド・テニスコートの学校開放事業を計画どおり実施する。</p>	<p><関連する数値目標></p> <p>○姉妹校等との学校交流・生徒交流2回以上</p> <p><自己評価>【A】</p> <p>●オーストラリア姉妹校への教員派遣 (8月)・オンラインでの生徒間交流 (11月)、アメリカ姉妹校への教員派遣 (3月) 実施 (来年度の海外学校間交流に向けた事前打ち合わせ実施)</p> <p>●オンライン英会話受講者 30名 Global Education Network20 指定校事業<新規></p> <p>●地域や関連機関と連携した防災訓練での応急処置、心肺蘇生、避難所運営としてトイレの設置等 (10月)</p> <p><課題と対応策></p> <p>◎アフターコロナでの国際交流の復活と、往来再開時を想定したプログラム内容の継承</p> <p>◎地域や関係機関と連携した防災訓練や実践的な避難訓練による防災教育のさらなる改善と充実</p> <p>◎在京外国人生徒の課題の把握・共有、及びサポート事業の活用等組織的・計画的な学習支援・進路指導の強化、進路実現</p> <p>◎施設開放事業、電子申請の追加、地域団体 (目黒区・世田谷区・渋谷区) の優先利用推進</p>

VI 国際バカロレア

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
<p>① DP の確実な実施に向けた課題解決と指導力向上を図るため、組織的・計画的に教科会や校内研修、IBO 主催研修、授業研究の実施及び授業実践集の発行等に取り組む。</p> <p>② カリキュラム・マネジメントを徹底し、DP 実施スケジュールに係る教育課程の改善に向けた検討を行う。</p> <p>③ 年間進路活動計画に基づき、生徒の進路希望に応じた情報提供やカウンセリング機能を充実させるとともに、データ分析を生かした進路指導を強化する。</p>	<p><関連する数値目標></p> <p>○フル・ディプロマ取得率 100%</p> <p>○進路決定率 90%以上</p> <p>自己評価>【B】</p> <p>●フル・ディプロマ取得率 89% (19名中2名は11月試験ではなく、5月試験予定、受験した17名はフル・ディプロマ取得)</p> <p>●平均スコア 37.6 (45点満点) 全員 30点以上、世界平均 30.91</p> <p>●進学決定率 68% (-26%)</p> <p>●校内外の研修による指導力向上、年間進路活動計画に基づく進路指導の実施</p> <p><課題と対応策></p> <p>◎教員研修や授業研究による組織的・計画的な指導力向上の継続</p> <p>◎進路希望の実現に向けた進路指導の一層の充実</p> <p>◎海外大学進学における諸課題 (奨学金及び海外情勢) についての情報収集及び支援体制の強化</p> <p>◎一人一人の生徒の進路希望に応じたカウンセリング対応や面談等の支援継続</p> <p>◎IB入試の在り方検討</p> <p>◎2025年再認定に向けた教育内容の改善・充実</p>

Ⅶ 募集・広報活動

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
<p>① 本校の取組を広く周知するため、ホームページの更新や学校通信の発行等計画的・組織的に教育活動を発信する。</p> <p>② 感染症対策を徹底した上で、年間を通じた募集対策を企画・運営し、フィードバック及び成果検証を確実に行う。</p> <p>③ 学校紹介 DVD や教育活動紹介パネル等を活用するとともに、ボランティア生徒の協力を得るなどして、説明会等の募集・広報活動に、全校体制で取り組む。</p> <p>④ 塾や多摩地区等における説明会に参加するなどして、募集・広報活動の範囲の一層の拡大に取り組む。</p> <p>⑤ 多様な志願者に対応するため、事前相談や資格確認に全校体制で取り組むとともに、志願者のニーズや受検者のデータ集積・分析を行い、募集対策や入学後の指導に役立てる。</p>	<p><関連する数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○HP 更新回数年 80 回以上 ○学校施設見学会・学校説明会参加者数 3,000 人以上 <p><自己評価> 【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●HP 更新回数年 106 回 (+21 回) ●学校説明会・合同説明会、授業公開への参加 3,881 人 (+1,154 名) ●施設見学会、学校説明会での生徒ボランティア (延べ 268 名) による校内案内の多言語での実施 ●上級学校訪問 (11 月) 参加 476 人 (+358 人) ●外部学校説明会への参加 9 回 (+4 回) ●入学者選抜学力検査応募倍率 2.85 (+0.15) <p><課題と対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ホームページや「学校案内」等の情報発信ツールの更なる充実と年間を通じた募集・広報活動の学校全体での取組体制の継続 ◎本校の良さを正確に伝えるための多角的な広報戦略の展開による生徒募集への反映化

Ⅷ 学校経営・組織体制

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
<p>① 全ての分掌・学年・教科が年度当初に組織目標を定め、中間報告、年度末総括を行い、課題の把握と具体的な解決策について組織的に検討する。</p> <p>② 服務事故防止研修やチェックシート等を活用した取組を通して、服務規律意識の向上を図り、服務事故ゼロを実現する。</p> <p>③ 経営企画室内の環境整備、電子起案の適正化、私費会計等の適切かつ効率的な管理運用、起案から決定に至る組織的ラインの徹底化を図る。</p> <p>④ ペーパーレスを促進するとともに、PDCA サイクルを徹底し、全教職員がコスト削減、迅速な課題解決、業務の効率化・平準化・縮減・削減に取り組み、超過勤務時間を削減する。</p>	<p><関連する数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○組織目標の明確化と課題解決への取組 100% ○個別超過勤務時間の削減 ○予算執行率 100% <p><自己評価> 【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●組織目標の設定・中間報告・総括の実施 ●今年度の課題について将来構想ミーティングで洗い出し、グラフィックデザインの改良、コンセプトマップの作成、多様な進路に即した模試の在り方検討導入、来年度の始期終期の検討変更等実現 ●服務事故防止研修年 3 回実施 ●経営企画室内の書庫等の整理、電子起案の適正化、部活動部費の適切な管理等実施 ●予算執行率 99% ●毎月の要面接指導レベルの超過勤務 2 回以上の者 4 名 <p><課題と対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎新しい教育課程の検証と改善 ◎仮説検証型課題研究の推進、具体的対応策の検討 ◎C4th 等の円滑な活用 ◎PDCA サイクルの徹底による学校全体での計画的な業務の遂行・改善・削減・効率化及び業務の平準化推進 ◎適正な会計事務・個人情報管理に向けた研修等の実施、事故防止の徹底 ◎服務規律意識の向上、服務事故防止研修の強化